様　式　Ｆ－１９－２

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：３３９２５
研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）
研究期間：2016～2019
課題番号：１５ＫＫ００６４

研究課題名（和文）ポーランドの文学、美術、公共空間におけるホロコーストの記憶のジャンル横断的研究（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Memory of the Holocaust in Polish Literature, Art, and Public Space: An Interdisciplinary Study(Fostering Joint International Research)

研究代表者
加藤　有子（KATO, Ariko）

名古屋外国語大学・外国語学部・准教授

研究者番号：９０５８３１７０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　11,300,000円
渡航期間：　12ヶ月

研究成果の概要（和文）：ナチス・ドイツ占領下、ポーランドにはユダヤ人の絶滅収容所が作られ、ホロコーストの現場となった。ポーランドにおけるホロコーストの記憶の特殊性について、ポーランド科学アカデミー、ホロコースト研究センターの研究者と共同研究を行った。ワルシャワ・ゲットーをめぐる記憶に着目して考察したほか、中東欧諸国のホロコースト記念の状況を調査し、特殊性と地域的共通性を明らかにした。さらに、日本におけるホロコーストの受容を調査し、ホロコーストをめぐる言説が第二次世界大戦のその他の出来事の記憶と連動していることを明らかにして、今後の比較研究の方向性を定めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
ポーランドにおけるホロコーストの議論は日本でも関心が高い一方、2000年以降の動向の紹介は少なかった。現地での共同研究の成果を日本語で発表したほか、海外共同研究者を日本に招いて超領域的国際シンポジウムを開催し、最新の研究成果を伝えるとともに、国際的な研究ネットワークの構築に寄与した。シンポジウムの論集はポーランド語、日本語で刊行し、双方向的に最新の研究状況を伝えることで、今後の共同研究の土台を作った。

研究成果の概要（英文）：In this project, I examined the memory of the Holocaust in Poland, especially that of the Warsaw Ghetto , through a collaboration with the Polish Center for Holocaust Research at the Polish Academy of Sciences in Warsaw. I compared the contemporary narratives and memorialization of the Holocaust in Poland with those in other Eastern-Central European countries to explore the specificity of Polish memory, as well as the globalization of the memorialization of the Holocaust. Further, I examined the reception of the Holocaust in Japan, which led me to the insight that the memory of a single war event is entangled with those of other events. This will be the focus of my next research project.

研究分野：ポーランド文学

キーワード：ホロコースト　ポーランド文学　ポーランド美術　記憶　記念碑　ゲットー　第二次世界大戦　写真

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

（１）

本研究のもとになった基課題は、ナチス・ドイツ対ユダヤ人という二項的図式のなかで漏れがちなポーランドという「現場」におけるホロコーストの集合的記憶の生成と変容、その特殊性を、EU 加盟 10 年を迎えた研究開始時点を一区切りとして、ジャンル横断的研究を通して明らかにすることを目指した。

体制転換以降、ポーランドや東欧では公式の歴史の見直しが進み、2000 年代以降は各地でホロコーストの記念碑や博物館が作られている。体制転換、2004 年の EU 加盟という戦後史を共有する東欧諸国に視野を広げ、比較的見地からポーランドのホロコースト受容を検討することで、ポーランドの特殊性と地域的共通性、ひいてはホロコースト表象のグローバル化の様相も浮かび上がるという発想に至った。

ちょうど、欧米では記憶研究が盛んになり、国際的シンポジウムや学会組織も始まっていた。また、ポーランドの首都ワルシャワでは、2014 年 10 月に国際研究チームの監修する大規模なポーランド・ユダヤ史博物館が開館し、世界各地のホロコーストやユダヤ文化の研究者が活発に往来して研究の一中心地となっている。ポーランド・ユダヤ史博物館の展示監修も務めたヤツェク・レオチャク教授率いるポーランド科学アカデミー文学研究所のホロコースト文学研究チーム、ホロコースト研究センターと共同研究を行うことで、最先端の情勢・研究動向を取り入れるとともに、世界各地から集まる研究者とのネットワークを構築できると考えた。

２．研究の目的

ワルシャワ・ゲットーやポーランドのホロコースト文学研究の第一人者であるヤツェク・レオチャク教授が率いるポーランド科学アカデミー文学研究所のホロコースト文学研究チームで一年間の滞在型共同研究をすることにより、１．基課題の研究を加速させ、２．現地調査および資料調査を集中的に行い、３．将来に向けた東欧地域のホロコースト、ナチズム、戦争表象の比較共同研究の国際的ネットワークを構築することを目的とする。

総括として、海外の研究者を複数、日本に招聘し、日本の研究者も含めた国際シンポジウムを開くことで、長期的にはヨーロッパとアジアの第二次世界大戦の記憶と文学、芸術の比較研究を行うための連携の基盤を作る。

３．研究の方法

（１）ユダヤ人ゲットーは、隣人であるユダヤ系住民に対するポーランド人の行動を倫理的次元で問うトポスとして機能し、なかでもワルシャワ・ゲットーは戦後のポーランド文化において重要なテーマとなっている。ワルシャワ・ゲットーの専門家である共同研究者の助言を仰ぎつつ、戦後ポーランドの文学、美術、記念碑等におけるワルシャワ・ゲットーの表象を考察する。ワルシャワに研究滞在することで、各研究機関や図書館、博物館の資料に集中的にあたるほか、現場の記念化事業の様子の実地調査を行う。

（２）ポーランド・ユダヤ人関係をめぐる最先端の研究者が集うポーランド科学アカデミーのホロコースト研究センターのセミナーや行事に参加し、報告を行うことで、新しい知見および自身の研究に対するフィードバックを得る。共同研究者が協力関係にある、ワルシャワ・ユダヤ史研究所、ポーランド・ユダヤ史博物館などのその他の研究機関の講演、イベントに参加し、人的ネットワークを構築する。

（３）近年、急速に記念化事業が進むポーランド国内の絶滅収容所跡地の現状を調査するとともに、ワルシャワ長期滞在を利用して、ヨーロッパ内のホロコースト関連施設を調査し、比較的な視野からポーランドの現状を概観する。国家レベル、EUレベル 自治体レベルの文化政策、ユダヤ文化遺産の所有権をめぐる論争、ナショナリズムも視野に入れながら、ホロコーストの記憶をめぐる現状を調査する。

４．研究成果

（１）戦後のホロコースト・イメージの形成に大きな影響を与えた、ワルシャワ・ゲットー蜂起の記録『ストロープ・レポート』の調査を行った。戦後、このレポートに含まれるいくつかの写

真が各国で複製、印刷されて流通したが、その代表的イメージはポーランド国内と世界では異なることに着目した。ゲットー蜂起の最中に建物から飛び降りる男の写真を、ポーランドにおけるワルシャワ・ゲットーのアイコニック・イメージとして論じるための基礎的な調査を行い、比較文学的かつ超ジャンル的に論じる研究を国際学会で発表した。写真はホロコースト研究において、本格的な研究が始まったばかりであり、英語論文として刊行予定の本研究のインパクトが期待される。この研究をもとに、戦争写真の比較研究を発展的に進展させる予定だ。

（2）ポーランドの研究者とともに、ヘウムノ、ベウジェツ、トレブリンカ絶滅収容所跡地、ルブリン、ウーチ、ワルシャワ、グダンスクなど、ポーランドの都市部の新しい博物館やユダヤ文化関連施設跡地を訪れ、再開発の現地調査を行った。公共空間における展示は文化政策、政治状況を反映するものであり、現地で刻々と変容する様子を調査することができた。収容所跡地の現状は日本ではあまり知られておらず、帰国後、福島県白河市にあるアウシュヴィッツ平和博物館のニュースレターに 4 回にわたって「ポーランドにおけるホロコーストの記憶」として連載した。

（3）ハンガリーやドイツ、フランス、イスラエル、ウクライナのリヴィウの記念碑や博物館を調査した。それによって、EU の東方拡大以降の旧東欧諸国におけるホロコーストをめぐる社会的記憶の状況の共通性が見えてきた。2017 年 5 月、ハンブルクで開かれた中東欧におけるホロコーストをめぐる超領域的学会に参加し、東欧地域におけるユダヤ人虐殺をめぐるさまざまな領域の研究者と意見交換し、今後の共同研究の基盤を築くことができた。

（4）ポーランド科学アカデミー文学研究所、ホロコースト研究センターのセミナーや学会に参加し、研究を深化させたほか、報告やレクチャーに招かれる機会も得て、国際的な研究ネットワークを広げることができた。講演の招待を複数得ることができたのも、博士号・アカデミックポスト保持身分で行う長期の研究滞在ならではで、本科研課題の趣旨に副う非常に大きな成果かつメリットだった。

海外の競争的研究資金の応募には推薦状が複数必要な場合が多く、推薦を依頼できるような実績ある海外の研究者と信頼関係を築くことができた。本研究のネットワークで情報を得て応募した競争的研究員プログラムに採択され、2020 年度はアメリカ合衆国ホロコースト記念博物館で研究滞在をすることが決まった。

（5）日本におけるホロコーストの受容について、ポーランド科学アカデミー、ホロコースト研究センターおよび、ワルシャワ・ユダヤ史研究所で報告した。ホロコーストや原爆など第二次世界大戦の記憶を国別、地域別、出来事別ではなく、総合的に、国をまたがる冷戦構造などと政治的背景とともに捉える次の研究プロジェクトの構想が生まれた。

（6）総括として、基課題との共催として、2018 年 11 月に名古屋でポーランドの研究者を 4 名、日本の研究者を 4 名招聘し、国際シンポジウム「ポーランドと日本における第二次世界大戦の記憶――ホロコーストと原爆を起点とする比較的アプローチ」を二日間にわたって開催した。序として、本研究のまとめとして、ホロコースト研究の現状やポーランドの状況を概観した。地域や専門領域を超えて専門家が多数集まり、活発な議論が行われ、今後の国際的な共同研究のネットワーク作りにも寄与することができた。また、日本ではポーランドのホロコースト研究の最新状況の紹介が不足しており、それを補うものとなった。

（7）上記（6）のシンポジウムの論集を一つの成果論集として、日本語、ポーランド語でそれぞれ刊行する。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計10件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　9件）

１．著者名 Ariko Kato	４．巻 14
２．論文標題 Japonskie publikacje o Zagladzie wydane po 1995 r.	５．発行年 2018年
３．雑誌名 Zaglada Zydow. Studia i Materialy	６．最初と最後の頁 632-647
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 加藤有子	４．巻 61
２．論文標題 ポーランドにおけるホロコーストの記憶――ワルシャワ・ゲットー、学術界の現在	５．発行年 2019年
３．雑誌名 アウシュヴィッツ平和博物館ニュースレター	６．最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 加藤有子	４．巻 60
２．論文標題 ポーランドにおけるホロコーストの記憶―ヘウムノとウーチの現在	５．発行年 2018年
３．雑誌名 アウシュヴィッツ平和博物館ニュースレター	６．最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 加藤有子	４．巻 59
２．論文標題 ポーランドにおけるホロコーストの記憶――ポーランド・ユダヤ史博物館、第二次世界大戦博物館	５．発行年 2018年
３．雑誌名 アウシュヴィッツ平和博物館ニュースレター	６．最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 加藤有子	4．巻 58
2．論文標題 ポーランドにおけるホロコーストの記憶	5．発行年 2018年
3．雑誌名 アウシュヴィッツ平和博物館ニュースレター	6．最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Ariko Kato	4．巻 13
2．論文標題 Recepcja Holokaustu w Japonii w perspektywie porownawczej: Auschwitz-Nankin-Hiroszima	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Zaglada Zydow. Studia i Materialy	6．最初と最後の頁 230-257
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計14件（うち招待講演　8件／うち国際学会　10件）

1．発表者名 加藤有子
2．発表標題 趣旨説明―〈ヒロシマ・アウシュヴィッツ〉のレトリックを超えて
3．学会等名 国際シンポジウム「ポーランドと日本における第二次世界大戦の記憶ホロコーストと原爆を起点とする比較的アプローチ」ウィンクあいち（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 Ariko KATO
2．発表標題 Falling Persons and a Polish Context of the Holocaust: Rereading Zofia Nalkowska's "Medalions" and the Photographs of "The Stroop Report"
3．学会等名 The Afterlife of the Shoah in Central Eastern European Cultures: Concepts, Problems, and the Aesthetic of Postcatastrophic Narration (Hamburg U, Germany)（国際学会）
4．発表年 2017年

1．発表者名 Ariko KATO
2．発表標題 Recepcja Holokaustu w Japonii w kontekscie zrzucenia bomby atomowej na Hiroszime-Nagasaki oraz zbrodni armii japonskiej
3．学会等名 Seminarium Naukowe (Jewish Historical Institute, Warsaw)（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2017年

1．発表者名 Ariko Kato
2．発表標題 The Reception of the Holocaust in Japan, a Comparative Perspective: Memorialization outside the Place
3．学会等名 Present Past: Time, Memory, & the Negotiation of Historical Justice. 7th Annual Conference of the Historical Dialogues, Justice and Memory Network (Columbia U, NY)（国際学会）
4．発表年 2017年

1．発表者名 Ariko Kato
2．発表標題 Recepcja Holokaustu w Japonii w perspektywie porownawczej: Auschwitz-Nankin-Hiroszima
3．学会等名 Seminarium badawcze, Zespol Badan nad Literatura Zaglady IBL PAN（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2017年

1．発表者名 Ariko Kato
2．発表標題 Zofia Nalkowska i Michiko Ishimure. Wokol literatury swiadectwa
3．学会等名 Uniwersytet Kazimierza Wielkiego w Bydgoszczy (Bydgoszcz, Poland)（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2019年

〔図書〕　計5件

１．著者名 Ariko Kato, Jacek Leociak, ほか7名	４．発行年 2020年
２．出版社 Wydawnictwo IBL	５．総ページ数 214
３．書名 Pamiec o drugie wojnie swiatowej w Polsce i Japonii. Holokaust i Hiroszima w perspektywie porownawczej	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	レオチャク　ヤツェク (Leociak Jacek)	ポーランド科学アカデミー・文学研究所・教授	
その他の研究協力者	エンゲルキング　バルバラ (Engelking Barbara)	ポーランド科学アカデミー・哲学・社会学研究所・教授	
その他の研究協力者	トカルスカ＝バキル　ヨアンナ (Tokarska-Bakir Joanna)	ポーランド科学アカデミー・スラヴ研究所・教授	